

青森家庭少年問題研究会では、25年7月から、毎週土曜日の午前中、小学生・中学生を対象に、学習支援活動を行っています。

青森市母子寡婦福祉会の協力を得て、ひとり親家庭の子どもたち12人を対象に、ボランティア登録してくれた県立保健大学、青森公立大学の学生さんが、子どもたちの学習進度に合わせて1対1で勉強を教えています。

■夏休みの学習課題に取り組んでいます。

中学校3年生は、最後の中体連が終わりました。受験勉強も、本番突入ですね。夏休みが近づくとつれ、新たな申込が増えてきました。今年度に入って8月5日まで新たに4人が仲間入りしています。さらに入会の希望もいただいております、あらためて、我々の活動に理解をいただいていることに感謝いたします。なるべく、学生さんとの1対1の関係を作りたいので、たくさんの子どもの受け入れは難しい面もありますが、可能な限り対応していきます。

子どもたちは、それぞれ、たくさん出された夏休みの課題に取り組んでいます。なるべく、家庭学習の習慣を身につけてほしいので、週1回の学習会の機会に、学生さんからも、次の週までお家で勉強するよう働きかけをしています。



■「子どもの貧困」講演会を開催しました。

先日、厚生労働省が最新の子どもの貧困率（平成27年）を発表しました。前回調査（平成24年）と比較して2.4ポイント改善し、13.9%となりました。しかし、未だに7人に1人の高い割合です。今後は、子どもの生活実態に即して、具体的な改善策を講じていく必要があります。

青森家庭少年問題研究会では、6月10日の総会・研修会で、滋賀・京都を中心に子どもの貧困問題について全国的に活動を行っている社会福祉士の幸重忠孝（ゆきしげ・ただたか）さんをお招きし、「子どもの貧困と居場所づくり」について講演会を開催しました。

県内から、子どもの学習会や子ども食堂など支援を行っている団体や、スクールソーシャルワーカー、学生などたくさんの方々が集まり、それぞれの活動報告・意見交換も行いました。

幸重さんのお話からは、子どもを中心とした地域づくりの取組の意義や子どもの居場所づくりの重要性について、理解を深めることができました。また、このような活動の中核となるソーシャルワーカーの人材育成も課題であると感じました。

このような支援活動には継続が重要です。我々も引き続き、活動を続けていきたいと思えます。

青森家庭少年問題研究会2017年度第1回学習会

子どもの貧困と居場所づくり

第1部 青森県内の取り組み報告
第2部 講演「子どもの貧困と居場所づくり」
講師：幸重忠孝（ゆきしげ・ただたか）氏
（幸重社会福祉士事務所（滋賀県大津市）代表）

*どなたでも参加できます。事前申込、参加費不要
日時：2017年6月10日（土）15：00～18：00
会場：弘前大学人文社会科学部4階多目的ホール
主催：青森家庭少年問題研究会
共催：弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
後援：（公財）青森県母子寡婦福祉連合会
（公社）青森県社会福祉士会
弘前大学ボランティアセンター

幸重忠孝（ゆきしげ・ただたか）氏
児童養育施設職員、大学教員を経て、2012年に幸福社会福祉士事務所を設立。代表を務めることろ「サタ☆くら通信」で、月刊を文化「サタ☆くら通信」の第三号以降「はっちゃん」など、子ども食堂「eatalk」、中間就労「ジョブキヤップ」など子どもの居場所づくりに取り組んでいるほか、全国に子どもを中心としたまちづくりを広げる活動をしています。その経験は、4月30日（日）のNHK総合テレビ「地域力アッププロジェクト」の企画で「サタ☆くら通信」の「はっちゃん」でも取り上げられました。

【問い合わせ先】弘前大学人文社会科学部・学務部
TEL: 0172-39-3199
E-mail: h.hanano@hiroshiki-u.ac.jp